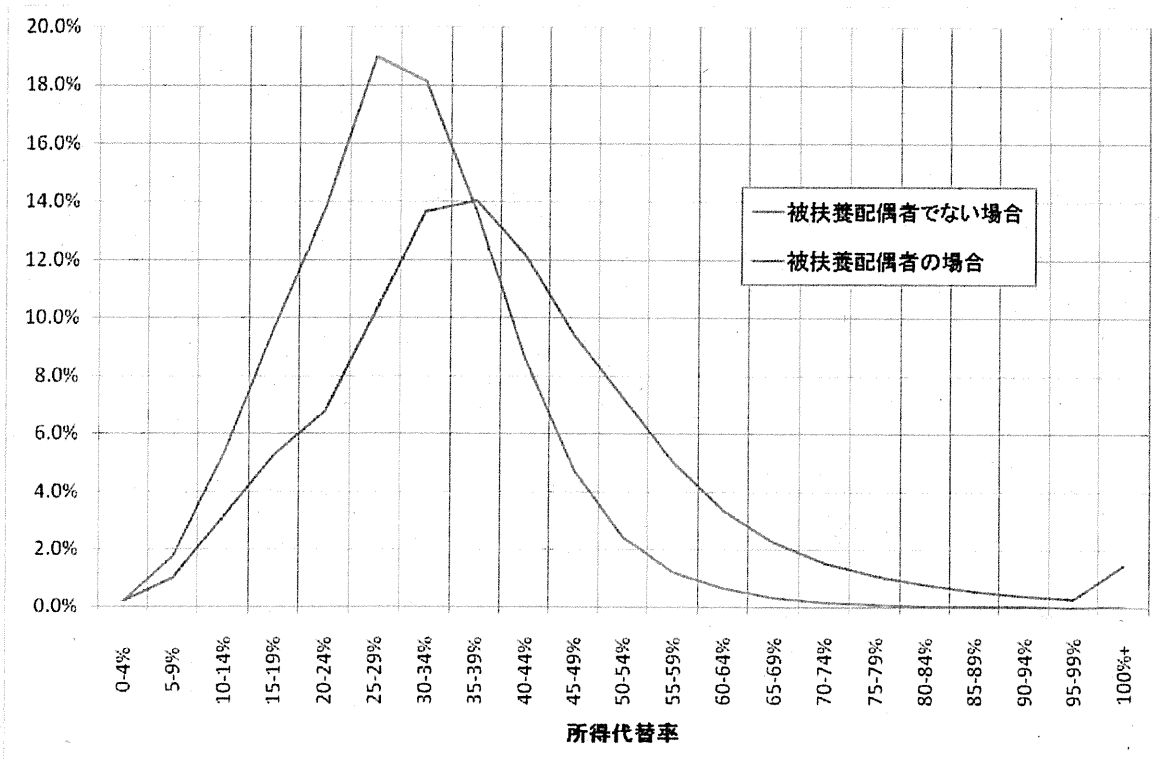


図 9：所得代替率の分布



1.4.10. 確率誤差

表 5 は、モンテカルロ法に由来する確率誤差を示したものである。このシミュレーションのサンプルサイズは 12 万 8000 人であり、100 回のシミュレーション結果の平均値をとっている。したがって、実質的な初期値人口の大きさは 12,800,000 という非常に大きなものであり、確率誤差は無視できる水準にある。

しかしながら、初期値人口そのものに標本誤差があり、遷移確率にも推定誤差がある。さらに、人々の選択行動は将来大きく変化する可能性もある。この表の数値は、モンテカルロ法に由来する確率誤差のみを表しており、その他の誤差は含んでいないことに留意が必要である。

表 5 : 確率誤差

	2025年			2050年		
	推計値	標準誤差	標準誤差率	推計値	標準誤差	標準誤差率
人口(単位:千人)						
総数	120,057	18	0.01%	96,061	66	0.07%
15歳未満	12,206	5	0.04%	8,524	9	0.11%
15 - 64 歳	71,278	2	0.00%	49,694	22	0.04%
65歳以上	36,574	5	0.01%	37,843	9	0.02%
世帯(単位:千世帯)						
世帯数	51,057	4	0.01%	43,348	8	0.02%
平均世帯人員	2.30	0.00	0.00%	2.14	0.00	0.00%
世帯所得(単位:万円)						
平均所得	522.1	0.8	0.15%	481.5	1.9	0.40%
所得の中央値	393.4	0.9	0.23%	328.6	1.7	0.50%
ジニ係数	0.455	0.000	0.00%	0.486	0.000	0.00%

1.5. 将来の方向

このモデルは、日本社会の包括的なマイクロシミュレーションモデルである。すでに述べたように、このモデルから、公式推計結果と整合性を持った様々な将来推計結果を得ることが可能である。しかしながら、財産、教育、持ち家、医療保険や税負担などの属性については、シミュレートする仕組みになっていない。

ダイナミック・マイクロシミュレーションモデルは、日本では普及していない。しかしながら、マイクロシミュレーションモデルから得られる結果、特に分布に関する推計結果は、世界で最も高齢化が進んでいる日本においては、政策の企画立案の際など、たいへん重要なものと考えられる。また、多くの研究者や政策立案者は、このモデルの有用性を理解していると思われる。

日本では、マイクロシミュレーションモデルの発展の前提となる、精度の高いマイクロデータの存在、政策立案者からの需要、高度なコンピュータ技術といった様々な条件が整っている。スーパーコンピュータも利用可能である。今後は、このモデルをさらに発展させるだけでなく、他の研究者や政策立案者に対して、積極的に広めていくことが重要になると考えられる。

¹ たとえば、Fukawa (1994, 2007, 2009)、Inagaki (2005, 2007, 2009)、稲垣 (2007)、稲垣・金子 (2008) などが INAHSIM の改善を試みている。

² 詳細は、付録 A を参照のこと。

³ 厚生年金又は共済年金の加入者（国民年金の第 2 号被保険者）は正規就業、その他の被用者及び自営業の家族従業員は非正規就業者として分類されている。

⁴ 2008 年における非嫡出子の比率は、2.1%である。

⁵ 稼働所得の推定は、2.2.9 を参照のこと。稼働所得は、対数正規分布に従うものと想定している。

⁶ 免除制度の適用を受けた場合の年金は、免除の種類とその期間に応じて、満額の年金の一定割合が支払われる。

⁷ 2008 年度では、保険料の未納者は約 40%である。

⁸ このデータは、2010 年 9 月 7 日付厚生労働省発統 0907 第 7 号により利用の許可を得たものである。

⁹ 2004 年国民生活基礎調査では、稼働所得は 2003 年の所得を、就業状態は 2004 年 6 月 1 日の状態を調査している。

¹⁰ 2005 年の国勢調査によると、外国人の総人口に占める割合は 1.2%である。

¹¹ 最近の出生率の実績は、公式推計よりもかなり高くなっている。

¹² 一般に年金水準の議論をするときに使われるものは、「モデル夫婦」の所得代替率である。このモデル夫婦は、夫婦が同年齢であり、20 歳時点で結婚しており、夫はその時点で被用者（第 2 号被保険者）として働いており、妻は生涯を通じて夫の被扶養者（第 3 号被保険者）という非現実的な定義となっている。

参考文献

- 青井和夫,岡崎陽一,府川哲夫,花田恭,稲垣誠一,他 (1986),『世帯情報解析モデルによる世帯の将来推計』財団法人寿命額研究会.
- 稲垣誠一 (1986),「世帯情報解析モデルについて」『日本アクチュアリー会会報』第39号, pp. 89 - 188.
- 稲垣誠一 (2007),『日本の将来社会・人口構造分析——マイクロ・シミュレーションモデル (INAHSIM) による推計』財団法人日本統計協会.
- 稲垣誠一 (2011),「INAHSIM (Ver.3.4) の概要—日本のマイクロシミュレーションモデル—」厚生労働科学研究費 (政策科学総合研究事業)『ダイナミック・マイクロシミュレーションモデルによる所得保障施策の評価・分析に関する研究:平成22年度総括・分担報告書』, pp. 91 - 133.
- 稲垣誠一・金子能宏 (2008),「マイクロ・シミュレーションモデル (INAHSIM) による所得分布の将来推計」厚生労働科学研究費 (政策科学総合研究事業)『所得・資産・消費と社会保障・税の関係に着目した社会保障の給付と負担の在り方に関する研究:平成19年度総括・分担報告書』, pp. 383 - 410.
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2008),『日本の世帯数の将来推計 (全国推計) ——2005 (平成17) 年~2030 (平成42) 年』財団法人厚生統計協会.
- Fukawa T. (1994), "Future Trends of Japanese Households through a Microsimulation Model: An Application of INAHSIM," *The Journal of Population Studies* 18:13-27.
- Fukawa T. (2007), "Household Projection 2006/07 in Japan Using a Microsimulation Model," IPSS Discussion Paper Series No. 2007-E02.
- Fukawa T. (2009), "Household Projections and Their Application to Health/Long-Term Care Expenditures in Japan using INAHSIM-II," paper presented to the second general conference of the International Microsimulation Association, Ottawa, June 8-10.
- Inagaki S. (2005), "Projections of the Japanese Socio-Economic Structure Using a Microsimulation Model (INAHSIM)," IPSS Discussion Paper Series No. 2005-03.
- Inagaki S. (2007), "The Impact of the Increase in Non-regular Employment on Income Disparities," *Journal of Income Distribution* 16:71-87.
- Inagaki S. (2010a), "Overview of INAHSIM: A Microsimulation Model for Japan," PIE/CIS

Discussion Paper No. 468, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University.

Inagaki S. (2010b), “The Effects of Proposals for Basic Pension Reform on the Income Distribution of the Elderly in Japan,” *The Review of Socionetwork Strategies* Vol. 4, Springer Japan, pp. 1-16.

Inagaki S. (2010c), “Income Disparities and Behavior of People Born in 1950s—Outline and Analysis of Internet Survey on the Individual Records of Regular Pension Coverage Notice,” *PIE/CIS Discussion Paper No. 495*, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University.

Kaneko R., Ishikawa A., Ishii F., Sakai S., Iwasawa M., Mita F. and Moriizumi R. (2008), “Population Projections for Japan: 2006–2055 Outline of Results, Methods, and Assumptions,” *The Japanese Journal of Population* 6(1):76-114.

Ministry of Health, Labor and Welfare, Pension Bureau, Actuarial Division (2010), “The 2009 Actuarial Valuation of the Employees’ Pension Insurance and the National Pension,” *Report of the 2009 Actuarial Valuation*, pp. 33-48.

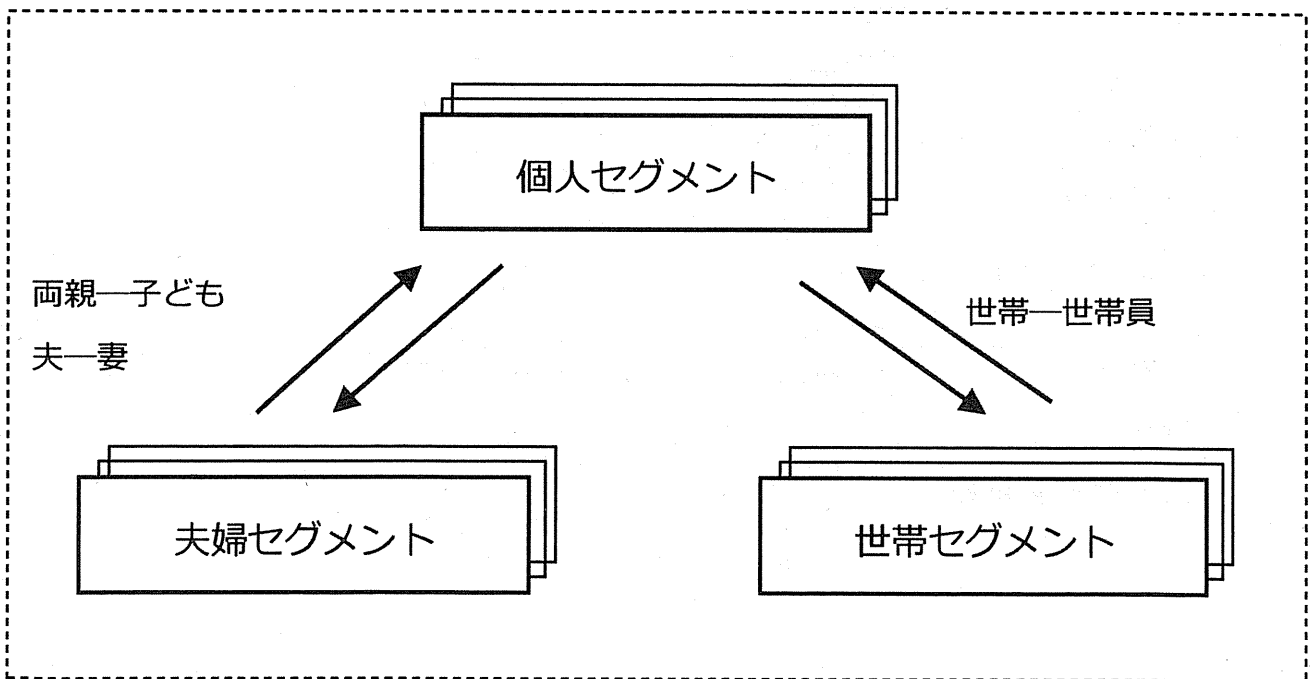
付録 A : データベース

1. データベースの構造

モデル人口は、個人セグメント、夫婦セグメント及び世帯セグメントの3つのテーブルから構成されている。個人セグメントと夫婦セグメントの間には家族を表すためのリンクがあり、個人セグメントと世帯セグメントの間には世帯を表すためのリンクがある。

- (1) 各個人は、個人セグメントの個人 ID (PID) で識別される。
- (2) 各夫婦は、夫婦セグメントの夫婦 ID (CID) で識別される。
- (3) 各世帯は、世帯セグメントの世帯 ID (HID) で識別される。

図 10 : データベースの構造



2. 各セグメントに含まれる属性

表 6：個人セグメント

No.	項目	内容
1	夫婦のCID	有配偶の場合、CID 無配偶の場合、ゼロ
2	世帯のHID	所属している世帯のHID 死亡している場合、ゼロ
3	家族のリスト構造	一つ上の兄弟姉妹のPID 第1子の場合、ゼロ
4	世帯のリスト構造	同居している世帯員のPID 最後の世帯員の場合、ゼロ
5	両親のCID	両親のCID 両親が不明の場合、ゼロ（初期値人口で両親が死亡している場合）
6	前の夫婦のCID	離死別の場合、前の夫婦のCID 離死別を経験していない場合は、ゼロ
7	ダミー	
8	出生年	出生年
9	死亡年	死亡年
10	性別	1: 男子; 2: 女子
11	健康状態	1: よい; 2: 悪い
12	就業状態	1: 正社員; 2: パート等; 3: 自営業者; 4: 非就業
13	公的年金の加入種別	1: 第1号; 2: 第2号; 3: 第3号; 4: 非加入
14	婚姻状態	1: 有配偶; 2: 未婚; 3: 離別; 4: 死別
15	国籍	1: 日本人; 2: 日本人以外
16	国民年金保険料の納付状況	1: 納付; 2: 4分の1免除; 3: 2分の1免除; 4: 4分の3免除; 5: 全額免除; 6: 納付猶予; 7: 未納
17-19	ダミー	
20	zスコア	稼働所得のzスコア
21	年金の受給状況	1: 基礎年金のみ; 2: 報酬比例年金のみ; 3: 両方; 4: 非受給

表 7：個人セグメント（続き）

No.	項目	内 容
22	生涯所得（前）	2004年以降の生涯所得（最低保障年金を除く）
23	35歳時の就業状態	35歳時の就業状態
24	35歳時の年金加入種別	35歳時の年金加入種別
25	35歳時のzスコア	35歳時のzスコア
26	35歳時のパラサイト・シングル状態	1: 35歳時にパラサイト・シングル（パート等または非就業）； 2: 35歳時にパラサイト・シングル（正社員または自営業主）； 3: 35歳時にパラサイト・シングルでない
27	前年の就業状態	前年の就業状態
28	等価所得（前）	等価所得（最低保障年金を除く）
29	前年の婚姻状態	前年の婚姻状態
30	ダミー	
31	総所得（前）	所得の合計（最低保障年金を除く）
32	稼働所得	稼働所得
33	基礎年金（前）	基礎年金（最低保障年金を除く）
34	報酬比例年金	報酬比例年金
35	その他の所得	その他の所得
36	累積スライド	既裁定者物価スライドによる実質的累積削減率（1000分率、80%で削減停止）
37-40	ダミー	
41	第1号被保険者期間	第1号被保険者期間（未納期間を除く）
42	第2号被保険者期間	第2号被保険者期間
43	第3号被保険者期間	第3号被保険者期間
44	基礎年金の納付済期間	第1号被保険者期間（納付期間）に第2号及び第3号期間を加えたもの
45-50	ダミー	
51	総所得（後）	最低保障年金等による下支え後の所得（31+53）
52	等価所得（後）	最低保障年金等による下支え後の等価所得
53	最低保障年金	最低保障年金（下支え分）
54	年金額（後）	最低保障年金等による下支え後の年金額（33+34+53）
55-60	ダミー	
61	生涯所得（後）	最低保障年金等による下支え後の生涯所得
62-100	ダミー	

表 8：夫婦セグメント

No.	項目	内 容
1	末子のPID	末子のPID 子どもがいない場合は、ゼロ
2	夫のPID	夫のPID 夫が不詳の場合は、ゼロ
3	妻のPID	妻のPID 妻が不詳の場合は、ゼロ
4	結婚年	結婚年
5	離死別年	離死別年 結婚を継続している場合は、ゼロ
6	既往出生児数	既往出生児数
7	生存子ども数	生存子ども数
8	離死別の事由	3: 離別; 4: 死別 結婚を継続している場合は、ゼロ
9	別居している子どもの数	別居している子どもの数
10	ダミー	
11	夫婦の稼働所得	妻が50歳の時の夫婦の稼働所得
12	夫婦の年金（前）	妻が70歳の時の夫婦の年金（最低保障年金を除く）
13	所得代替率（前）	項目12を項目11で除したもの 妻が70歳未満・その他計算できない場合は、- 1 （最低保障年金を除く）
14	妻の出生年	妻の出生年
15	夫婦の年金加入種別	妻50歳時における夫と妻の年金加入種別の組み合わせ
16-20	ダミー	

表 9：世帯セグメント

No.	項目	内容
1	世帯員のPID	世帯員のPID 世帯が消滅している場合は、ゼロ
2	ダミー	
3	世帯の生成年	世帯が生成された年
4	世帯の消滅年	世帯が消滅した年 世帯が消滅していない場合は、ゼロ
5	世帯人員	世帯人員
6	世帯の種類	1: 一般世帯; 2: 施設世帯
7	世帯構造	1: 単独世帯; 2: 夫婦のみの世帯; 3: 両親と未婚の子の世帯; 4: 片親と未婚の子の世帯; 5: 三世代世帯; 6: その他の世帯; 7: 施設世帯 世帯が消滅している場合は、ゼロ
8	世帯の稼働所得	世帯員の稼働所得の合計
9	世帯の年金（前）	世帯員の年金の合計（最低保障年金を除く）
10	世帯のその他の所得	世帯員のその他の所得の合計
11	世帯の総所得（前）	世帯員の総所得の合計（最低保障年金を除く）
12	世帯の総所得（後）	最低保障年金等による下支え後の世帯の総所得
13	世帯の年金（後）	最低保障年金等による下支え後の世帯の年金
14-20	ダミー	

3. セグメント間のリンケージ

3.1. 家族：親子関係

図 11：両親（夫婦セグメント）から子ども（個人セグメント）へのリンケージ

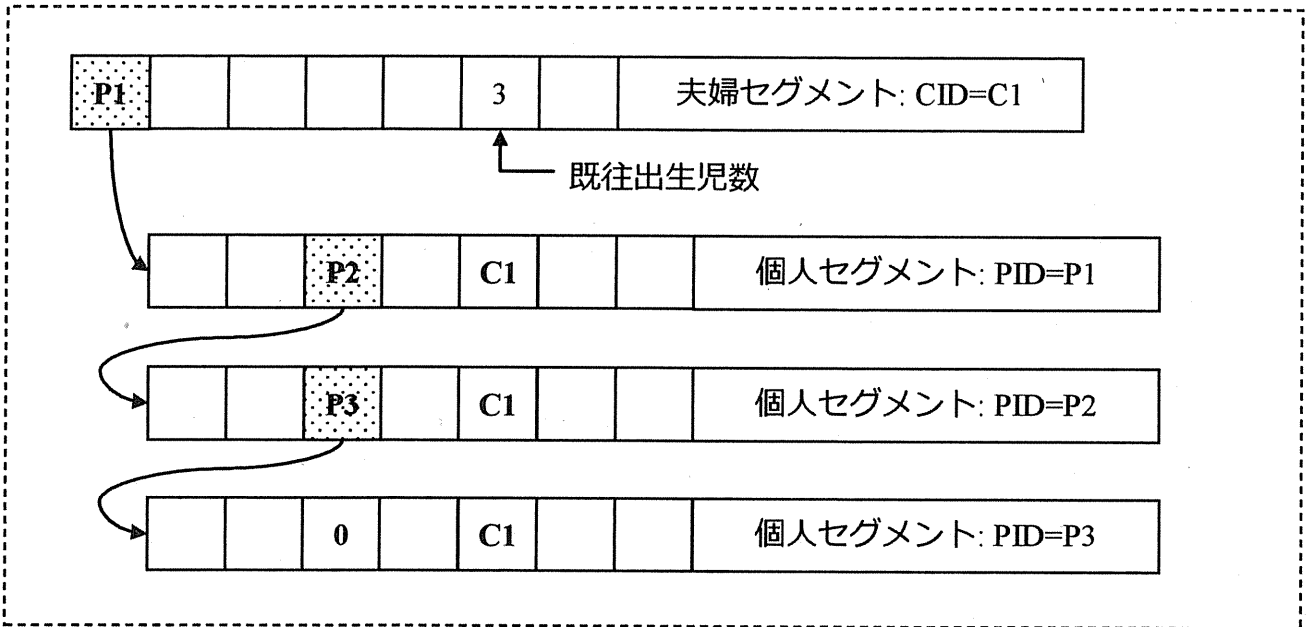
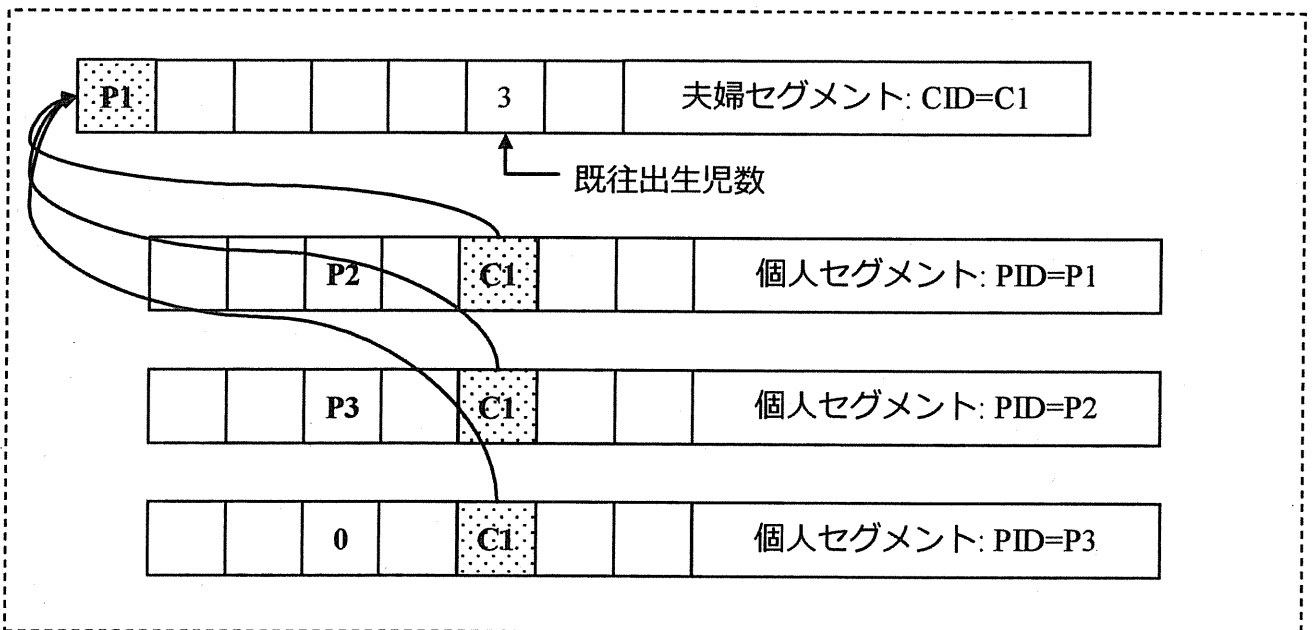


図 12：子ども（個人セグメント）から両親（夫婦セグメント）へのリンケージ



3.2. 夫婦：夫と妻

図 13：夫婦（夫婦セグメント）から夫及び妻（個人セグメント）へのリンク

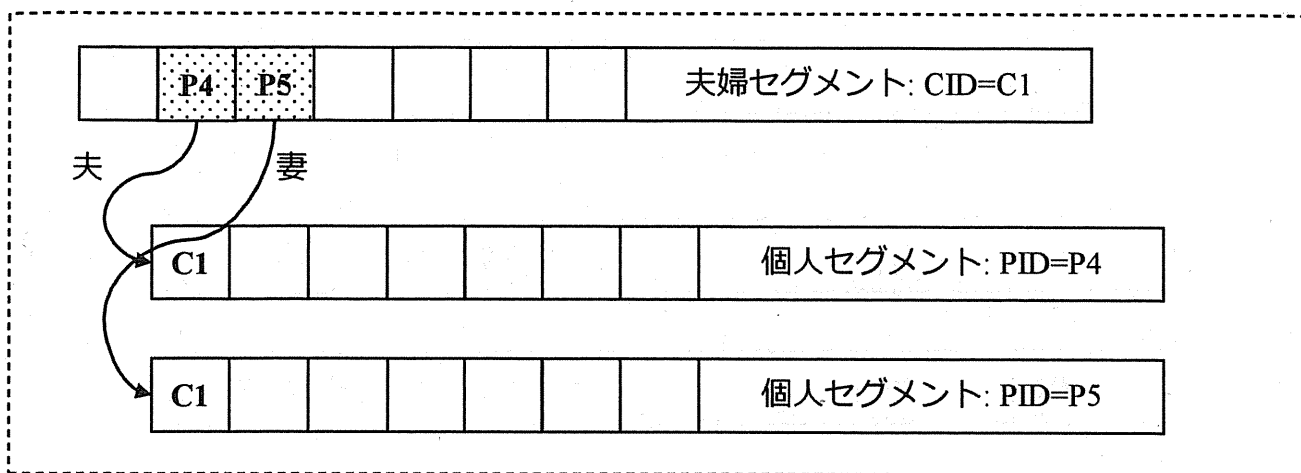


図 14：夫及び妻（個人セグメント）から夫婦（夫婦セグメント）へのリンク

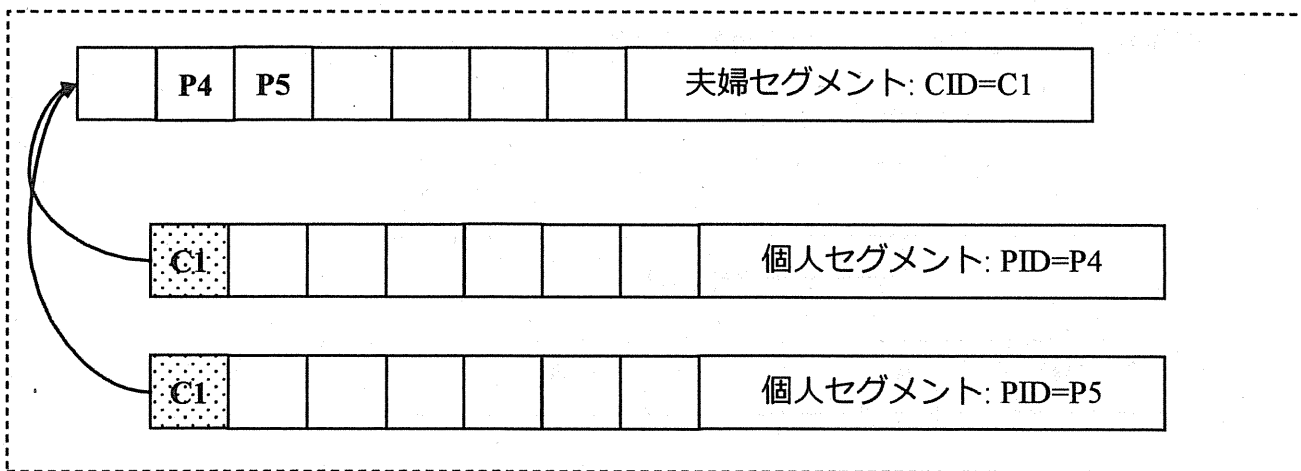
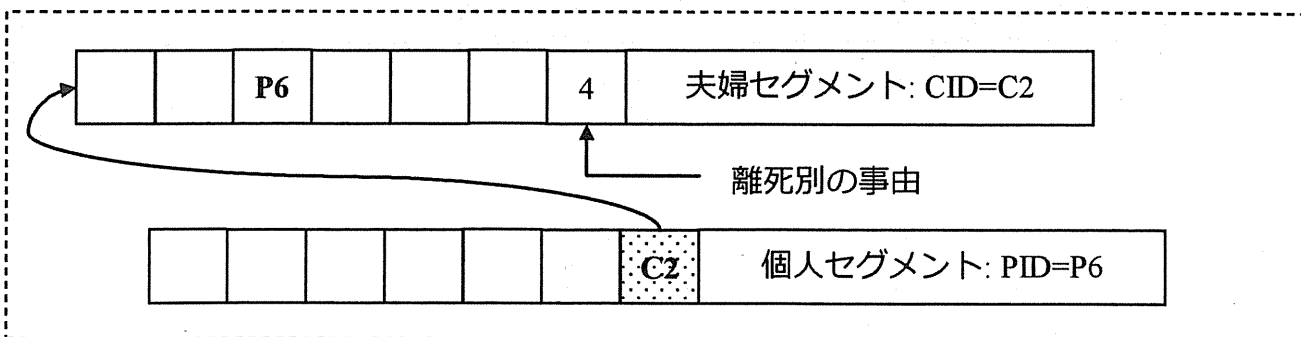


図 15：離死別者（個人セグメント）から前の夫婦（夫婦セグメント）へのリンク



3.3. 世帯：世帯と世帯員

図 16：世帯（世帯セグメント）から世帯員（個人セグメント）へのリンクージ

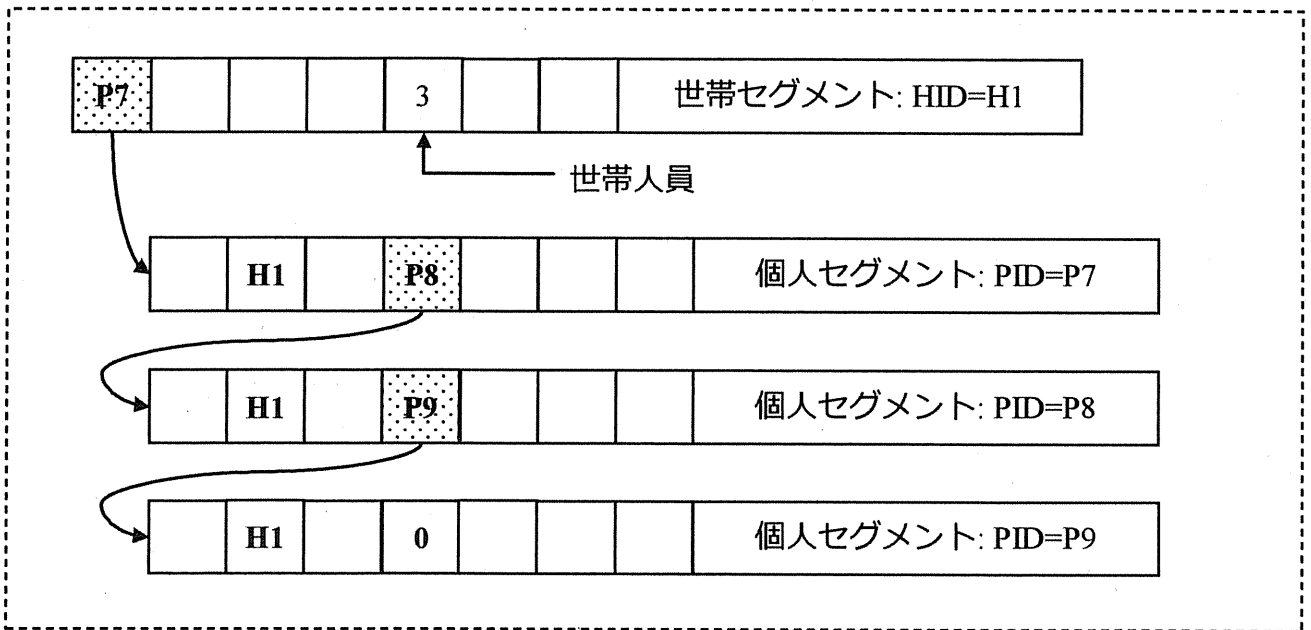
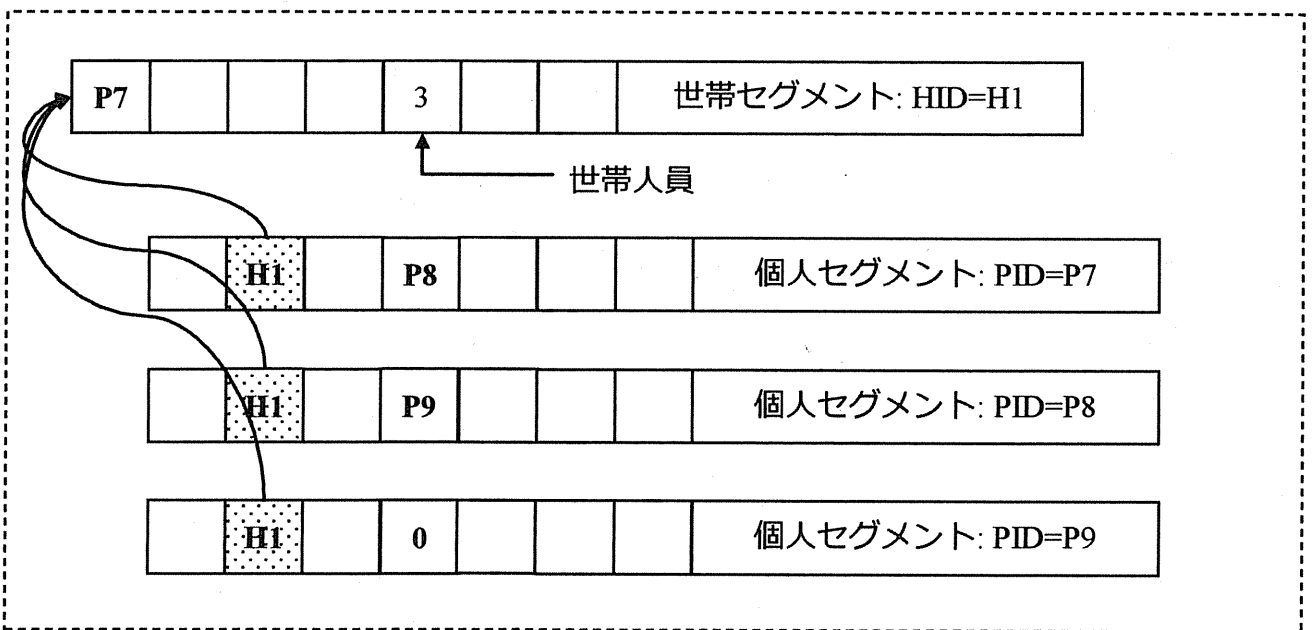


図 17：世帯員（個人セグメント）から世帯（世帯セグメント）へのリンクージ

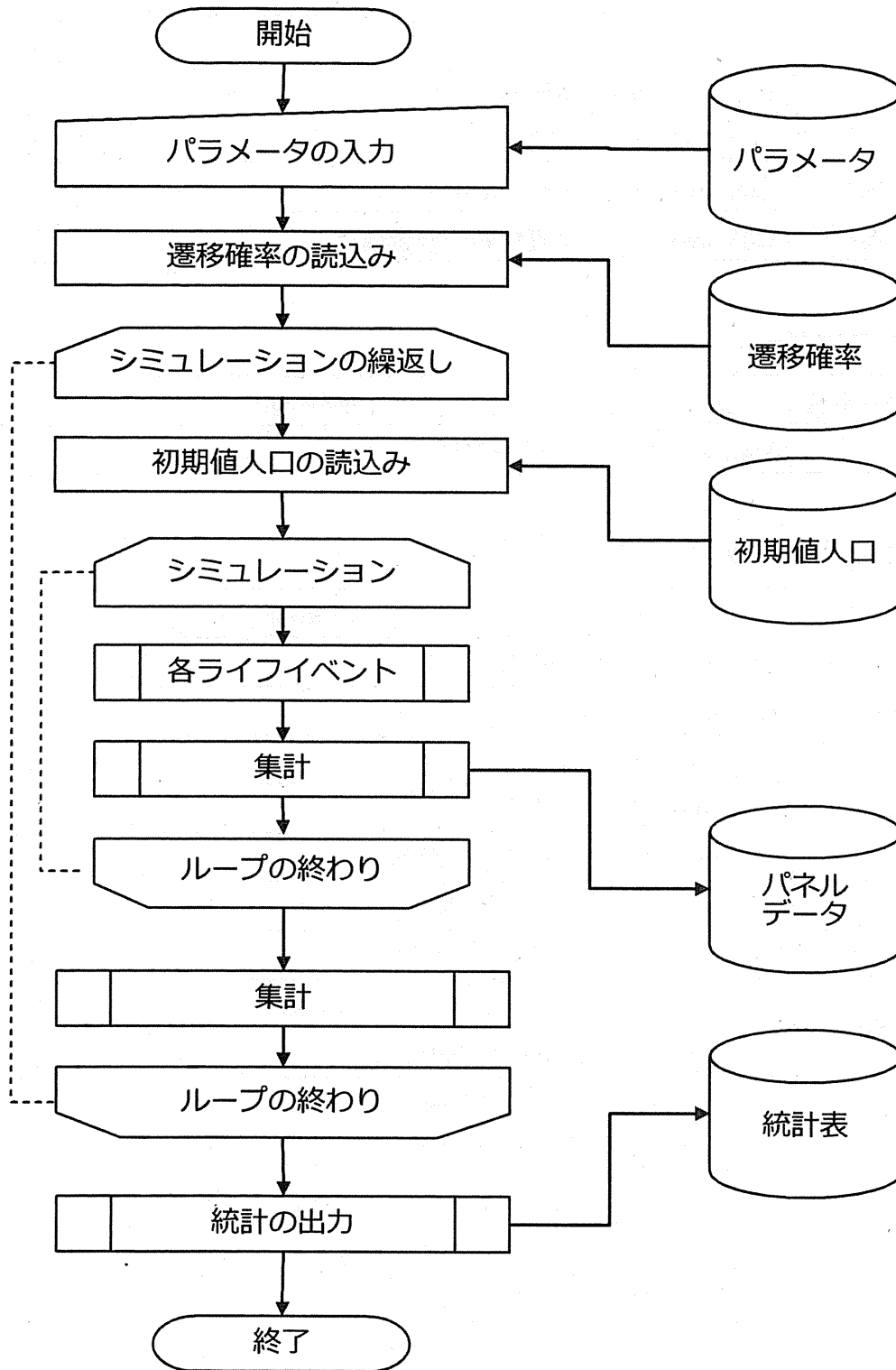


付録B：ライフイベントと遷移確率

ライフイベント	遷移確率	基礎データ及び備考
結婚	性別・年齢別・就業状態別の初婚（再婚）確率	データ：2005年人口動態統計 男子（パート等）の初婚確率に対する相対リスク：0.558 2010年までの低下傾向を考慮
	結婚時の両親との同居確率	データ：2001年国民生活基礎調査 新郎の両親：0.2 新婦の両親：0.05
出生	母の年齢別・既往出生児数別の有配偶出生率	データ：2005年人口動態統計 出生児のzスコアは、両親のzスコアに基づいて決定
死亡	性別・年齢別・健康状態別の死亡確率	公式の将来推計人口（2006年推計）と同一の前提 健康状態の違いによる相対リスクはこのシミュレーションでは考慮していない 2055年までの低下傾向を考慮
離婚	妻の年齢別・子の有無別の離婚確率	データ：2005年人口動態統計 子がない場合の離婚の相対リスク：1.488
	性別の離婚時の親元世帯への復帰確率	データ：2001年国民生活基礎調査 男子：0.43 女子：0.35
	性別の子どもの親権の割合	データ：2005年人口動態統計 男子：0.2 女子：0.8
国際人口移動	性別・年齢別の外国人入国者数 zスコアは、無作為に割り当て	公式の将来推計人口（2006年推計）と同一の前提 ネットの出入国者数 すべての入国者は未婚と想定
健康状態の遷移	性別・年齢別の健康状態（よい又は悪い）の遷移確率	データ：2001年国民生活基礎調査 性別・年齢別の健康状態の分布が変化しないように遷移確率を設定

就業状態の 遷移	性別・年齢別・婚姻状態別の 遷移確率	正社員と正社員以外の間の遷移確率：平成 21 年厚生年金・国民年金の財政検証と同じ 前提 その他の遷移確率：正社員以外の就業状態の 構成割合が変化しないように推定（データ： 2004 年国民生活基礎調査） 女子については、第 1 子出産、両親との同居、 結婚の有無について、相対リスクを考慮（デ ータ：稲垣 2007）
稼働所得の 推定	性別・年齢別・婚姻状態別の 稼働所得の分布	データ：2004 年国民生活基礎調査 対数正規分布に従うものとしてパラメータ を推定
年金の新規 裁定	性別・35 歳時の年金加入種 別別の新規裁定年金額の分 布	データ：稲垣（2010） ねんきん定期便のデータに基づいて推定
若年者の離 家	性別・年齢別・就業状態別の 離家（親元への復帰）確 率	データ：2001 年国民生活基礎調査 若年未婚者の親との同居比率が変化しない ように推定
老親との同 居	性別・年齢別の別居してい る子どもとの同居を始める 確率	データ：2001 年国民生活基礎調査 子どもとの同居比率が変化しないように推 定
施設への入 所	性別・年齢別・婚姻状態別の 施設入所の確率	データ：2005 年国勢調査 施設入所者の比率が変化しないように推定
年金保険料 の納付	国民年金保険料を納付する 割合	データ：事業年報（社会保険庁）
マクロ経済 指標	消費者物価上昇率及び賃金 上昇率	公的年金の財政検証で想定されたもの （Ministry of Health Labor and welfare, pension Bureau, Actuarial Division, 2010） 標準的前提は、賃金上昇率 2.5%、消費者物 価上昇率 1.0%

1. フローチャートの概要



2. サブルーチンの一覧

2.1. 変数の定義

No.	モジュール名	ファイル名	処理内容	行数
C01	com_var	C01_var.f90	データベースのパラメータ	34
C02	com_prob	C02_prob.f90	遷移確率	56
C03	com_table	C03_table.f90	統計表	117
C04	com_title	C04_title.f90	統計表のタイトル	159
C05	com_item	C05_item.f90	統計表の分類項目	234

2.2. メインプログラム

No.	モジュール名	ファイル名	処理内容	行数
-	Main	Main.f90	メインプログラム	434

2.3. ライフイベントのサブシステム

No.	モジュール名	ファイル名	処理内容	行数
L11	kekkon	L11_kekkon.f90	結婚	199
L12	shussho	L12_shussho.f90	出生	119
L13	shibo	L13_shibo.f90	死亡	176
L14	rikon	L14_rikon.f90	離婚	180
L15	imin	L15_imin.f90	国際人口移動	79
L21	kaigo	L21_kaigo.f90	健康状態の遷移	60
L31	shugyo	L31_shugyo.f90	就業状態の遷移	218
L32	unemp	L32_Unemp.f90	2009年における派遣切り	42
L41	kado	L41_kado.f90	稼働所得の推定	104
L51	nenkin	L51_nenkin.for	年金の新規裁定	297
L52	slide	L52_slide.f90	年金額の改定	59
R01	mgp	R01_mgp	最低保障年金等の算定	205
L61	rika	L61_rika.f90	若年者の離家	67
L62	gappei	L62_gappei.f90	老親との同居	76
L63	shisestu	L63_shisestu.for	施設への入所	135
L71	zeikin	L71_zeikin.f90	年金保険料の納付	90

2.4. 統計

No.	モジュール名	ファイル名	処理内容	行数
S01	stat01	S01_person.f90	個人セグメントに関する統計	376
S02	stat02	S02_couple.f90	夫婦セグメントに関する統計	91
S03	stat03	S03_house.f90	世帯セグメントに関する統計	134
S04	stat04	S04_statistic.f90	二次統計	100
S05	stat05	S05_cohort.f90	コーホート別の統計	109
S07	stat_chk	S07_chk.f90	デバッグのための統計	39
S11	ginicov	S11_ginicov.f90	ジニ係数、四分位の計算	62
S21a	tashikomi	S21_tab.f90	繰り返し計算における足し込み	134
S21b	kakidashi	S21_tab.f90	統計表イメージの作成	132
S21c	goukei	S21_tab.f90	統計表の合計計算	108
S22a	sumup1	S22_sum.f90	一次元表の合計計算	23
S22b	sumup2	S22_sum.f90	二次元表の合計計算	23
S22c	sumup3	S22_sum.f90	三次元表の合計計算	34
S22d	segout	S22_sum.f90	マイクロデータの出力	26
S22e	kaku	S22_sum.f90	繰り返し計算の平均値の計算、結果表の出力	38
S23	clear01	S23_clear01.f90	統計表のゼロクリア	134
S24	clear02	S24_clear02.f90	統計表のゼロクリア（足し込み用）	134

2.5. 属性の更新

No.	モジュール名	ファイル名	処理内容	行数
U01a	up_zennen	U01_update.f90	前年の属性の更新	27
U01b	up_income	U01_update.f90	総所得の再計算	108
U01c	up_house	U01_update.f90	世帯構造の判定	23
U02	history	U02_history.f90	個人履歴の追加	27

2.6. その他のルーチン

No.	モジュール名	ファイル名	処理内容	行数
A01	dokyo1	Sub_lib.f90	両親との同居の判定	50
A02	dokyo2	Sub_lib.f90	両親が指定した世帯に属しているかどうかの判定	33
A03	dokyo3	Sub_lib.f90	両親との同居形態の判定	55
A04	haigu	Sub_lib.f90	現在の配偶者のPIDの取得	27
A05	haiguk	Sub_h.for	婚姻状態の判定	34
A06	jikka	Sub_h.for	両親の世帯のHIDの取得	40
A07	joshi	Sub_lib.f90	両親との同居、直近年における第一子の出産又は結婚の経験の判定	53
A08	keitai	Sub_lib.f90	高齢者の家族形態の判定	63
A09	kozo	Sub_h.for	世帯構造の判定	116
A10	ksetai	Sub_h.for	高齢者のいる世帯かどうかの判定	26
A11	oya	Sub_lib.f90	両親のCIDの取得	24
A12	oyako	Sub_lib.f90	親子関係の有無の判定	28
A13	sagasu	Sub_lib.f90	生存している子どものPIDの取得	42
A14	parasite	Sub_lib.f90	パラサイト・シングルかどうかの判定	42
A15	psetai	Sub_h.for	25歳以上のパラサイト・シングルがいる世帯かどうかの判定	27
A16	ruikei	Sub_h.for	世帯タイプの判定	92
A17	sampling	L11_kekkon.f90	結婚候補者から結婚イベントを発生させる者の系統抽出	32
A18	seikubun	Sub_lib.f90	性別・婚姻状態別のインデックスの作成	27
A19	sub_seed	Sub_seed.f90	ランダムシードの設定	17
A20	under20	Sub_lib.f90	親権の必要な子ども数のカウント	25

2.7. データベースの操作

No.	モジュール名	ファイル名	処理内容	行数
B01	birth	Sub_b.f90	出生児を家族のリスト構造に追加	31
B02	death	Sub_b.f90	死亡年を個人セグメントに追加	17
B03	increase	Sub_b.f90	新しい世帯員を世帯のリスト構造に追加	17
B04	produce	Sub_b.f90	新しい世帯の生成	18
B05	decrease	Sub_b.f90	転出した世帯員を世帯のリスト構造から削除 世帯が消滅した場合は、消滅年を世帯セグメントに追加	41
B06	extinct	Sub_b.f90	夫婦の消滅に関する処理	28
B07	marriage	Sub_b.f90	新しい夫婦の生成に関する処理	24
B08	immigrate	Sub_b.f90	入国者の個人セグメントを作成	15
B09	move20	Sub_b.f90	20歳未満の子どもを父または母の世帯に移動	36

2.8. 遷移確率の入力

No.	モジュール名	ファイル名	処理内容	行数
T01a	kiso_bir	T01_demo.f90	出生に関する遷移確率の入力	68
T01b	kiso_dea	T01_demo.f90	死亡に関する遷移確率の入力	50
T01c	kiso_mar	T01_demo.f90	結婚に関する遷移確率の入力	71
T01d	kiso_div	T01_demo.f90	離婚に関する遷移確率の入力	71
T01e	kiso_mig	T01_demo.f90	国際人口移動に関する遷移確率の入力	41
T02	kiso_ken	T02_ken.f90	健康状態の遷移に関する遷移確率の入力	33
T03	kiso_emp	T03_emp.f90	就業状態の遷移に関する遷移確率の入力	87
T04	kiso_ear	T04_ear.f90	稼働所得の推定に関する遷移確率の入力	44
T05	kiso_pen	T05_pen.f90	年金の新規裁定に関する遷移確率の入力	67
T06a	kiso_sin	T06_house.f90	若年者の離家に関する遷移確率の入力	56
T06b	kiso_old	T06_house.f90	老親との同居に関する遷移確率の入力	42
T11	kiso_eco	T11_eco.f90	マクロ経済指標の入力	53
T12	kiso_sld	T12_sld.f90	マクロ経済スライド率の入力	47